

特集

次代を担う人材を育て、シン化する高校

～地域に密着した地元の高校・松浦高校支援事業～

松浦高校は、昭和37年に開校した市内唯一の高等学校。今年度は創立60周年を迎え、来年4月から普通科の名称が地域科学科へ変わります。

今月は本市が行う支援事業、そして地域科学科の特徴についてお知らせします。



なぜ松高を支援するのか

県立松浦高等学校は（以下「松高」）は、松浦市にある唯一の高等学校です。皆さんは「松高がなくなったらどうなる？」と考えたことはありませんか？

もし松浦市から松高がなくなった場合、これまで聞こえていた松高生の元気な声がまちから消え、松浦市は若者のいない活気のないまちになってしまいます。

また、市内の子どもたちは市外の高校へ進学し、遠距離通学、下宿入寮することになり、通学費や下宿費など、保護者への経済的負担が大きく増えることとなります。

令和3年7月29日現在、松高の全校生徒数は237人です。全日制課程で、普通科（2クラス）と商業科（1クラス）の2学科で編成されています。各学年の定員は120人ですが、少子化の影響もあり定員割れが続いています。

松高は、令和4年度から「地域科学科」と「商業科」の2学科に変わります。これは、文部科学省の新時代に対応した高等学校教育に関する制度改正（令和3年）によるもので、普通科の学びに加えて、これからの社会の変化に対応するための学びを大学を含めた進学を最優先に考えた



▲3学年の夏季補習の様子

学科として設けられるものです。松浦市では、松高の「地域科学科」と「商業科」の2つの学科で学ぶことで、進学も就職もしっかりとした進路実現ができると考えています。また、地元での学びを通じて「郷土愛」を育み、将来、松浦市に貢献できる人材を育てることは地元の高校にしかできないと考えています。そのため、松高の存続、そして松高生の将来のために、さまざまな支援制度を設けて松高の魅力づくりを応援しています。

松高支援の内容

市では、平成25年度から松浦高等学校支援事業を開始。保護者の負担軽減のための事業に加え、平成28年度からは制服リニューアルや高校魅力向上の取り組みなどにも助成を行い、学校存続のための生徒確保を支援しています。

市が松高PTAを通じて支援しているメニューは次の通りです。なお、①②は、保護者の負担軽減を目的とした補助で、③④⑤の魅力向上等を目的とした事業は予算の範囲内での補助となります。

① 生徒確保支援事業

・ 下宿費補助（5千円～2万5千円）

② 進学及び就職支援事業

・ 模擬試験受験料補助（1/2以内）

・ 進研実力、進路マップ、県一斉GTEC（英語技能検定）、全統マークなど

・ 就職模擬試験受験料補助（1/2以内）

・ 就職模試、看医模試、公務員模試など

・ 資格試験受験料補助（1/2以内）

・ 簿記検定、珠算、電卓検定、情報処理検定、全商英検1～3級、漢検2～3級など

・ 補習受講費用補助（1/2以内）

・ 早朝補習、放課後補習、土曜補習、各種検定補習、その他補習教材など

③ 地域連携及び魅力発信事業

・ オープンスクール、文化部芸術祭（対象経費全額）

④ 部活動強化対策事業

・ 高校の魅力向上につながるもの（対象経費全額）

⑤ その他市長が必要と認める事業

・ 進路実現・人材育成に関するもの（対象経費全額）

市ではこれ以外にも地域課題解決型学習「まつナビ」への人的支援などを行っています。

また、松高の魅力化の取り組みの一つとして、平成29年にAKBGグループのステージ衣装製作を手がける「オサレカンパニー」が立ち上げた学校制服ブランド「O.C.S.D.」のサポートのもと制服をリニューアル。この制服に使われているチェック柄「松浦タータン」は、英国を代表する世界的キルトメーカー「キンロック・アンダーソン社」から世界に一つだけのチェック柄として、認定を受けています。

卒業生に聞きました 松浦高校に進学して…

卒業生インタビュー（就職）

住商エアバッグ・システムズ
株式会社勤務

か え
大久保 香絵さん



松高は、自分の家から近いこと、勉強と部活を両立しながら進学や就職のために頑張っていると聞き、通いたいと思いました。また、オープンスクールで見た制服がかわいいと思ったことも理由の一つです。

まつナビでは、松浦市がアジの水揚げ日本一ということに加えて、フグなども養殖されていることや色んな漁法があることなどを学びました。

3年生の時は、コロナ禍で修学旅行や高総体が無くなり、思い出作りもできませんでした。小規模ではありましたが、体育祭・文化祭が開催できたことは嬉しかったです。

進路については、県外に出ようと考えていましたが、高校生活を送る中で松浦がいいという思いが芽生え、最終的に家族や友達が近くにいること、松浦が好きで松浦市に貢献したいと思いい、地元就職しました。

卒業生インタビュー（進学）

公立大学法人 名桜大学
看護学科1年

あゆむ
百武 歩さん



私は看護師を目指して、大学に通っています。私が今の大学に通うことができてるのは、松高生時代に市の支援制度があったからです。

受験や就職の際は、参考書の購入、模擬試験の受験など出費の機会が多くなります。就職や受験を有利に進めるため、資格や検定の取得が必須になります。松浦市からの手厚い補助が他校と比べて大きなアドバンテージ(利点)となり、進路実現のため全力を尽くすことができます。

私も英語検定や漢字検定、模擬試験など多くの補助を受け、自分の夢のために大学へ通うことができています。そのほか、まつナビでの松浦タータンの研究や部活動のバスケットボールなど色々な経験をすることができました。

将来は、松浦市のような地方を包括的に、健康面から支えることができる看護師になろうと考えています。

地域で学ぶ「まつナビ・プロジェクト」

松浦高等学校校支援事業の一環で、平成29年度から地域課題解決型学習「まつナビ」に取り組んでいます。この取り組みは、令和2年度からは、県教育委員会が管理機関となり、文部科学省の研究委託事業「まつナビ・プロジェクト」として取り組まれています。

松高では、平成29年度から高校・行政・地域が一体となって地域課題解決型学習「まつナビ」を実施してきました。

まつナビとは、「松浦市」と「学び」を合わせた造語で、松浦市内でフィールドワーク（現地調査など）を行い、市の課題に対する解決策を実践したり、提言（発表）したりしています。

この取り組みが評価され、**県内で初めて文部科学省**の、地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）研究委託を受け、令和2年度から3年間、**まつナビ・プロジェクト**（通称MNP）を実施することとなりました。

このプロジェクトでは、市・市議会・市教育委員会・小中学校校長会・松浦商工会議所・松高PTA・松高同窓会・長崎大学・長崎県立大学・エミネントスラックス(株)などもコンソーシアム（連携会議）組織の委員として参加し、意見交換や生徒支援を行っています。

このプロジェクトでは、普通科・商業科が一緒になって自分たちが選んだテーマごとに班を編成。地域との協

働により、地域を素材にして課題研究に取り組む、高1から高3までの3年間の学びによって、本気で松浦の未来を担いたいと考える姿勢を育むことを目的の一つとしています。

このプロジェクトを通して、論理的思考力、コミュニケーション力、データ分析などから解決策を導く学びができ、進学先や就職先でさまざまな課題に直面した時に必要となるスキルを習得することができます。

また、この取り組みを通して地域の魅力を発見し、「地域に残る」生徒や「将来松浦市に貢献したい」という生徒を育てることができると考えています。



▲ 2学年のまつナビの様子

【第57回生（99人）進路実績】

単位：人

進学	進学計	内訳
国公立大学	10	広島大学、★佐賀大学、★長崎大学2人、★長崎県立大学4人、★名城大学、北九州市立大学
私立大学	17	長崎総合科学大学2人、日本経済大学3人、西九州大学3人、鎮西学院大学2人、大阪人間科学大学、法政大学、長崎国際大学、日本薬科大学、関東学院大学、立教大学、昭和音楽大学
短期大学	4	香蘭女子短期大学、佐賀女子短期大学、大分短期大学2人
専門学校	34	佐世保市立看護5人、宗像看護、佐世保市医師会看護、伊万里看護2人、武雄看護リハビリ、九文歯科衛生士学院2人、佐世保高専2人、その他20人
計	65	★「まつナビ」での学びをいかして大学受験に合格した生徒がいる国公立大学

就職等	就職計	内訳
松浦市内	7	近江鍛工(株)、住商エアバッグ・システムズ(株)3人、日本遠洋旋網漁業協同組合、(株)昭和ボーリング、(株)電計社
松浦市以外の県内	20	千住病院、アリアケジャパン(株)九州工場3人、丸神総建、長崎県信漁連、(株)スエオカ、双葉産業(株)長崎工場、八光商事(株)、老健施設サクラ、(株)エイコー商事、長崎部品(株)2人、赤木コーセイ(株)、(株)ドラッグストアモリ、青洲会病院、ながさき西海農協、(有)ニシ・マイカーセンター、自衛隊、自営
県外ほか	7	看護学生、バスガイド、調理員、販売員など
計	34	

「シン化した」新たな普通科「地域科学科」の導入

令和4年度から松高の「普通科」は、**全国初**の「地域科学科」に変わります。これは、国の「新時代に対応した高等学校教育に関する制度改革（令和3年）」に基づくもので、高等学校における「普通教育を主とする学科」の弾力化（普通科改革）によるものです（文部科学省ホームページより）。

地域科学科では、総合的な探究の時間（1〜3年）で自分の将来について考え、決断する「キャリアプランニング（進路計画の策定）」を行い、自ら考えたキャリアプラン（進路計画）に応じた普通教科の学び（1〜3年）に加えて、学校設定科目（1・2年）として地域課題解決型学習（まつナビ）に取り組みます。

このことにより3年間で**普通科の教科の学び**に加え、**課題解決能力**（課題発見力・論理的思考力・コミュニケーション力）や**ふるさとを大切に**する姿勢を身につけることができます。県教育委員会では、この松高の取り組みを他校へも展開することについて検討しています。

【県教育委員会コメント】

これからの大学や社会では、自ら学ぶ力や課題を発見し解決する力、コミュニケーション力などが求められています。地域科学科では、しっかりとした普通科教育を基盤として、このような資質・能力を伸ばすための最先端の学びを取り入れ、生徒一人ひとりの高い進路目標の達成につなげたいと考えています。

地域科学科への変更は、これまでの「まつナビ」などの地域と密着した学びなどの取り組みが国や県に評価された結果です。

市内の子どもたちが、松高に進学することで大学進学や就職などの希望する**進路を一人ひとりが実現し**、あわせて**ふるさとを大切に**する姿勢を身につけてくれると確信しています。

【まとめ】

市は、松高を卒業した生徒が地元へ就職したり、市外へ進学した後、将来松浦市へ戻ってきたり（還流）するなど、松浦市に貢献できる人材を育成するため、松浦高校支援を続けています。

また、先日開催した地域版未来会議には松高の生徒や先生方にも参加頂き、松浦市のこれからのまちづくりに真剣に意見を述べてもらいました。市は、地域に密着した地元の高校をこれからも支援していきます。

問 政策企画課 内線318

指導者が考えるこれからの「松高」



長崎県立松浦高等学校

小野下 和宏校長

松高は、「シン化」する学舎^{まなびや}です。シン化とは、次の①〜③を実現することです。

- ①「キャリアプランニング」に応じた「基礎的な学び」と「まつナビ」を「深める」こと。
- ②社会の変化に対応できる「課題解決能力」と「ふるさとを大切にする姿勢」を「伸ばす」こと。
- ③①で培った②の「力」を最大限活用して、松高生一人ひとりの**進路希望の実現を図ること**。

来年度から、地域科学科（シン化した普通科）では大学を含む進学を、商業科では松浦市内をはじめとする就職を目指した教育活動を進めます。松浦の子どもは、松浦で育てる。松高で、人生を豊かに生きていくための力を身に付ける。その理念の実現のため、松高の教育活動に対する、松浦市の皆さまのご理解とご協力を心からお願いいたします。



長崎大学教育学部

井手 弘人 准教授

まつナビ・プロジェクトのカリキュラム開発専門家として月に数回、松高を訪れ生徒などに助言指導を行っています。

いま、教育界では「学力」を世界基準にあわせる改革が進行中。①知識・技能、②思考力・判断力等、③学びに向かう力・人間性等の3つの柱をバランスよく備えることを学力と定義しました。知識を増やすだけでは不足で、それを使って世の中に関わる場面があり、今の学力が伸ばせません。進学や就職で見る学力もこの流れを受けて変わる傾向にあります。

松浦高校には、「まつナビ」で学んだことを活用し、松浦市の地域づくりに関わる環境がすでにあります。これは他地域ではなかなかできないメリットです。松浦市の児童・生徒の皆さんには、中学生までに身近な学校区の個性を体感し、楽しんでほしい。それが、松高に入った後、学力を伸ばす基礎となります。